

緊急課題
解決 9

暮らしと産業を守る獣害対策プロジェクト

担当部局：農水商工部

解決すべき課題

- サルやシカ、イノシシなど野生鳥獣による農林水産被害は、農山漁村地域の過疎化、高齢化の進行等による耕作放棄地や放置林の増加、野生鳥獣の生息数の増加や生息域の拡大などにより、近年、急激に拡大しています。
- 本県の野生鳥獣による農業被害額は全国的にみても上位にあり、地域住民の営農意欲の減退や生きがい喪失などの精神的被害を招くとともに、自動車等との衝突事故や家屋への侵入など生活被害も生じていることから、早急に鳥獣被害防止対策を強化する必要があります。
- 有害駆除等により捕獲された野生鳥獣の肉は、貴重な地域資源となり得る可能性があります。大部分は有効に活用されていないのが実情であり、未利用資源活用の観点からも獣肉の利活用を図っていくことが求められています。

県民の皆さんに成果をお届けします（プロジェクトの目標）

- 集落ぐるみによる野生鳥獣の追い払いや侵入防止柵の整備等を行う「被害対策」と、有害鳥獣等の適正な駆除や野生鳥獣が生息しやすい森林整備等を行う「生息管理」に取り組み、「獣害につよい三重」づくりが進んでいます。
- 「被害対策」と「生息管理」への的確な取組とあわせ、未利用資源活用の観点での「獣肉利用」を連係させて進めることにより、本県の野生鳥獣による農林水産被害が減少しています。

プロジェクトの数値目標

目標項目	H23(現状)	H24	H27
野生鳥獣による農林水産被害金額			

〔目標項目の説明〕

- ・サル、シカ、イノシシ、カモシカ、カワウ等による農林水産業の被害金額

プロジェクトの構成

実践取組 1

「野生鳥獣による農林水産被害」 を解消するために

野生鳥獣による農林水産業の被害減少を図るため、獣害につよい集落づくりを進めるとともに、被害地周辺での捕獲体制を整備する取組を支援します。

- 市町が策定した被害防止計画の着実な実施に向け、侵入防止柵や緩衝帯の整備、有害鳥獣駆除実施隊等の活動に対する支援を行うとともに、獣害対策の集落リーダーや獣害対策の幅広い知識を持った人材の育成を進めることにより、獣害につよい集落づくりの着実な促進と周辺地域等への波及拡大を図ります。
- 地域住民自らが、市町が設置する有害鳥獣駆除実施隊等との連携のもと、わな等を用いて野生獣の捕獲に取り組む体制づくりへの支援を行います。
- 侵入防止柵の汎用化、低コスト化、ニホンジカによる果樹・樹木の皮剥ぎ防止、アライグマをはじめとする「新害獣」の捕獲等に関する技術の開発に取り組みます。

実践取組 2

「獣肉等の利活用に向けた課題」 を解決するために

消費者が獣肉を安心して食することができるよう安全性や品質が確保された「みえのジビエ^{注)} 1料理」を提供できる環境づくりを進める

とともに、新たな高級食材として獣肉を販売できる取組を進めることにより、未利用資源となっている獣肉等の利活用を図ります。

- 安全・安心で質の高い獣肉等を安定的に供給できるよう、有害鳥獣等の捕獲から獣肉の利用に至るマニュアル等の作成や、野生獣の有効活用に向けた商品開発等を促進します。
- 獣肉等の消費拡大に向け、県産獣肉を購入できる小売店や飲食店に関する情報提供、レストラン等との連携による高級食材としての利用など、幅広い視点に立った販路拡大を進めます。

実践取組 3

「集落周辺への頻繁な出現」 を解決するために

かつて野生鳥獣の生息地となっていた森林を再生することにより、集落周辺への野生鳥獣の出現の減少を図ります。

- 集落周辺への野生鳥獣の出現の減少につながるよう、公益的機能が適正に発揮され、下草等の植生が豊かで野生鳥獣の生息しやすい森林づくりを進めます。

注) 1 ジビエ：狩猟によって捕獲し食用にする野生鳥獣の肉をさすフランス語。これを用いた料理はジビエ料理と呼ばれる。

主な事業

事業名	平成24年度 事業費 (単位:千円)	施策番号 及び 施策名	担当 部局名	選択・集 中PG 特別枠
森林被害防除のための調査研究事業費	3,000	(313)林業の振興と森林づくり	環境森林部	○
獣害につよい地域づくり推進事業費	761,243	(254)農山漁村の振興	農水商工部	
地域捕獲力強化促進事業費	25,069	(254)農山漁村の振興	農水商工部	
予防型獣害対策構築のための調査研究事業費	4,413	(254)農山漁村の振	農水商工部	
みえの獣肉等流通促進事業費	15,501	(254)農山漁村の振興	農水商工部	○ (一部)
森林再生による野生鳥獣の生息環境創出事業費	225,877	(313)林業の振興と森林づくり	環境森林部	○